

【編集後記】

『部落解放研究』16号をお届けする。本号は「部落問題研究の展開」として5本の論文、「民族問題研究の展開」として1本の論文を収めた。小森論文では、行政闘争に焦点を当て、戦後広島部落解放運動が辿られ、「解放運動と行政権力」の諸経験、諸教訓が分析された。井上・笹倉論文では、進路保障をめぐる先行議論が批判的に検討され、部落解放教育の目的・意味が問い直された。笹川論文では、部落出身者のアイデンティティ形成を規定する他者の部落観・部落認識としての、「まなざし」の形成と構造が分析された。青木論文では、被差別部落民のアイデンティティと文化の分析における方法的な諸問題が提起された。小早川論文では、近代広島における「権力と部落学校」が分析され、部落学校をめぐる先行研究の定説が批判的に検討された。安論文では、広島の高齢者福祉施設を対象に、在日一世女性の高齢者問題が、彼女たちの生活史を通して分析された。

すべて意欲的な書き下ろしである。部落問題では、運動、教育、意識、文化、歴史の諸断面から問題の提起と分析が行なわれた。民族問題では、加齢する定住外国人という、もう一つの福祉問題が提起された。いずれも、豊富な議論が可能な論稿である。読者の大いなる応答を期待したい。

今号も合評会（「著者を囲む会」）をもちたい。研究所の皆さんにはあらためて日程等をお知らせする。参加を呼びかけたい。

(A)